てくれました。また、熱心にビデオ撮影をしていた立原さんのご家族は「高校から書道を始めたのですが、今回初めて大筆を担当することができてよかったです」と感激の面持ちでした。

部員数が2人と少ない波崎柳川高校は、司会や運営で活躍しました。作品は中央図書館に展示されるので、他校の作品と一緒に観賞することができます。室井武さん(1年)の小学2年生の妹さんは、書道パフォーマンス体験に飛び入り参加。感想を聞くと、「面白かったです。大きくなったら書道パフォーマンスをやってみたい」と元気に答えてくれました。

書道パフォーマンス体験に飛び入り参加

## 神栖高校の練習風景

**～自主性を重視し何でも話し合う～**

生徒たちは、一体どのような練習を重ねて書道パフォーマンスを作り上げているのでしょう？　3つの高校を訪ねて練習風景を見学しました。

神栖高校書道部は、笑顔が絶えない明るい雰囲気。部員の皆さんに、書道パフォーマンスが出来上がるまでの手順を教えてもらいました。「テーマに合う曲を見つけて、その曲調や歌詞から言葉を探り出して書く文字を決めます。次に、文字をどう配置するか設計図のようなものを作り、誰がどの文字をどういう順番で書いていくかを考えて、実際に音楽を流して書いてみます」

ここまですべて部員同士で話し合って決めるそうです。「一人で書くわけではないので、臨機応変に周りと合わせることが大切」と話す顧問の加藤氣吹先生。文字のバランス、書くスピード、人が入れ替わるタイミングなど、いろいろなことに神経を張り巡らせて練習を重ねていました。

【神栖高校】左から小柳葵さん、松尾椿さん、村上舞桜さん、遠藤梨衣さん、本間海羽さん、野口ゆかりさん、河野那奈さん、前川くるみさん

設計図をもとに書きあげた作品

加藤先生

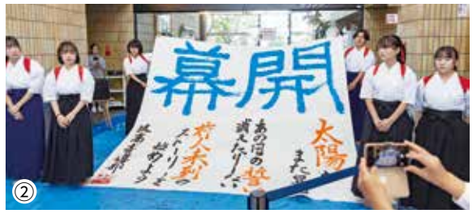
## 波崎高校の練習風景

**～コミュニケーションを楽しむ～**

波崎高校書道部は、みんな元気いっぱい。和気あいあいと会話する様子から、チームワークの良さが伝わってきます。部員の皆さんに、書道パフォーマンスの難しさと楽しさについて聞きました。「立って移動しながら、しかも音楽に合わせて書くというのは、普段の書道では絶対やらないことばかり。みんなでタイミングを合わせて、バランスを取って書いていくのは大変です。でも練習を重ねると息が合ってきて、みんなの文字がバチっとそろって完成したときは達成感があります。一番大切なのは、互いを尊重し合って行動すること。普通の書道は一人で黙々と書く〝孤独な戦い〟ですが、書道パフォーマンスではコミュニケーションをとりながら書く楽しさを学びました」

顧問の鈴木麻由先生は「仲間と協力し合って一つのことを成し遂げる一体感」、井口明美先生は「作品だけでなく書き手が主役になるので、貴重な自己表現の場」と魅力を語ってくれました。

井口先生、鈴木先生



【波崎高校】①左から篠本莉央さん、加瀬洸翔さん、立原心胡さん、奥田未羽さん、網中遥さん、津久浦碧さん　②温かい拍手に包まれる　③鈴木先生から指導を受ける生徒たち

## 波崎柳川高校の練習風景

**～思いを込めて創造する～**

波崎柳川高校書道部は、少人数でほのぼのとした雰囲気です。一年の前半は全国高等学校総合文化祭に向けた作品制作、後半は書道パフォーマンスの練習にあてています。二人が入部したきっかけは、中学生のときに波崎柳川高校の書道パフォーマンスや書道作品を見て、その迫力に圧倒されたこと。当時波崎柳川高校では、中学校に出向いて学校紹介をする際に、書道パフォーマンスを披露していたそうで、今でもその作品が出身中学校の図書室に展示されているとのことです。

顧問の塙安沙菜先生は、習字と書道の違いについて「習字の目的は正しく字を書くことですが、書道は古典の臨書や創作で芸術性を求められるところが一番の違い」と教えてくれました。今回、展示用の作品に込めた思いを部員の大倉さん・室井さんは、「これからの長い人生で挑戦することがたくさんあると思うから」「小さい頃からチャレンジ(挑戦)という言葉に動かされてきた」とそれぞれ話してくれました。言葉の意味を深く掘り下げて作品を創造しようと取り組んでいます。

「挑戦」を繰り返し練習

塙先生

【波崎柳川高校】左から室井武さん、大倉弓和さん

### まず一度、観賞のススメ

高校生たちの書道パフォーマンスは、国際交流のイベント、地区のお祭りなどで披露されています。一度見ていただければ、その迫力に感動し、体全体を使って書く姿から、そして書き上げられた文字から、いろいろなことを感じ取ることができると思います。機会があればぜひ観賞し、拍手や手拍子を送ってください。日本文化である書道への印象が、これまでになく身近でワクワクするものへと変わることでしょう。

**作品は1月14日(日)まで中央図書館で展示中**